

月刊しぼうら

2020年12号

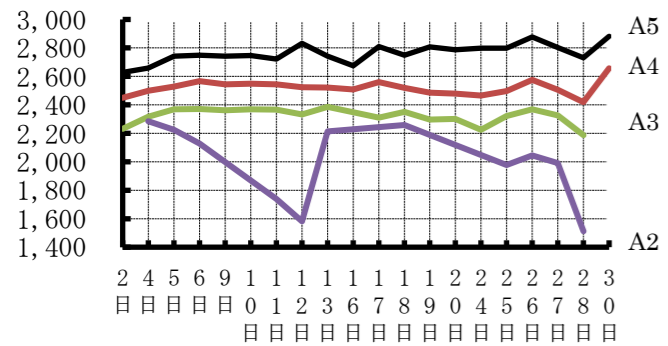
牛肉営業部

<11月の相場動向>

11月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 102 円高の 2,767 円（前年同月比 26 円安）、A4 が 166 円高の 2,518 円（同 75 円高）、A3 が 165 円高の 2,322 円（同 147 円高）、A2 が 13 円高の 1,995 円（同 76 円高）、交雑種は去勢 B4 が前月比 129 円高の 1,715 円（同 48 円安）、B3 が 172 円高の 1,607 円（同 28 円安）、B2 が 198 円高の 1,471 円（同 19 円安）となった。

政府による各種補助事業により需要のすそ野が広がっているのに加え、活発な輸出需要に支えられ和牛・交雑牛ともに上昇する相場展開となった。しかしながら、11月に入り新型コロナウイルス感染症の感染者が増加したことで外食の引き合いが弱まる等、末端需要と枝肉価格の乖離が見受けられる。

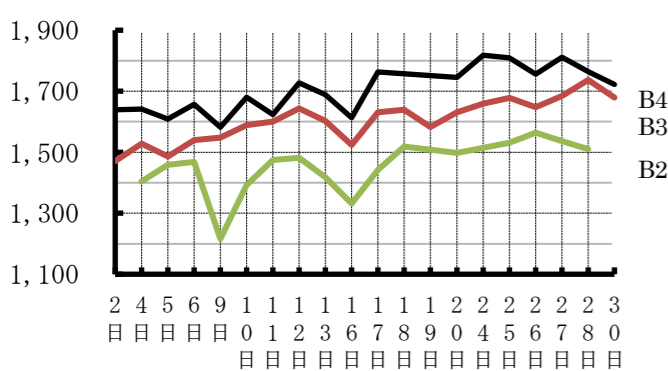
和牛去勢 日別相場表（11月）



和牛去勢（月平均）

A5	2,767 円（前年同月比 99.1%）	（前月比 103.8%）
A4	2,518 円（ 〃 103.1%）	（ 〃 107.1%）
A3	2,322 円（ 〃 106.8%）	（ 〃 107.6%）
A2	1,995 円（ 〃 104.0%）	（ 〃 100.7%）

交雑去勢 日別相場表（11月）



交雑去勢（月平均）

B4	1,715 円（前年同月比 97.3%）	（前月比 108.1%）
B3	1,607 円（ 〃 98.3%）	（ 〃 112.0%）
B2	1,471 円（ 〃 98.7%）	（ 〃 115.6%）

乳牛去勢（月平均）

B3	上場なし	
B2	905 円（前年同月比 98.8%）	（前月比 110.9%）

<12月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計によると、10月の輸入牛肉通関量は、前年同月比 8.0%減の 5 万 956 t で、内訳としてチルドは 16.2%減の 2 万 1,369 t、フローズンは 1.0%減の 2 万 9,587 t だった。チルドは前年の数量が多かった反動に加え、豪州産の減産による現地高、北米の工場の稼働状況や入船の遅れ等により大幅に減少している。フローズンは豪州が減少したものの、米国が増加したことで全体としては微減となった。

農畜産業振興機構の予測による 12 月の牛肉輸入数量は、前年比 11.5%減の 4 万 7,000 t で、内訳はチルドが同 2.9%減の 2 万 900t、フローズンは同 17.3%減の 2 万 2,100 t と予測している。市中在庫は少ないものの、新型コロナウイルス感染症の第三波により引き合いも落ち着き始めており、セーフガード発動の懸念もあるため積極的になれない様子。

輸入牛肉通関量	10月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	10,701	11,490	93.1%
	米国	8,990	11,844	75.9%
	その他	1,678	2,151	78.0%
	合計	21,369	25,485	83.8%
フローズン	豪州	11,820	15,784	74.9%
	米国	12,945	9,125	141.9%
	その他	4,822	4,966	97.1%
	合計	29,587	29,875	99.0%

出典：食肉連報 単位：t

<12月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターによる 10 月末の全国牛飼養頭数は 393 万 1,078 頭（前年同月比 1.0%増）と微増となった。内訳をみると和牛は 172 万 1,279 頭（同 1.7%増）、交雑種は 51 万 7,151 頭（同 4.2%増）、ホルスタイン種は雄（去勢）が 25 万 1,188 頭（同 6.1%減）、雌は 136 万 1,461 頭（同 0.3%増）となった。和牛の増加、ホルス種雄（去勢）の減少傾向に変わりはなく、近年減少傾向にあった交雑種が増加となっている。

農畜産業振興機構によると、12 月の牛出荷頭数は前年比 6.3%増の 10 万 1,000 頭と予測している。品種別にみると和牛は前年比 11.6%増の 5 万 200 頭、交雑種は同 2.0%増の 2 万 1,600 頭、乳用種は昨年並みの 2 万 7,600 頭と肉用牛を中心に増加と予測している。

東京食肉市場の 12 月のと畜頭数は 7,950 頭を予定しています。

<12月の牛枝肉相場見通し>

最需要期となる 12 月を迎え、月の前半は引き続き堅調な相場が見込まれる。しかしながら高値相場の要因も、堅調な内食需要と政府による施策や海外輸出によるところが大きく、とりわけ Goto 事業関係は新型コロナウイルス感染症の第三波により先行きが不透明となり、外食関係は地域や業態によって明暗が分かれそうだ。

年内の手当てが一巡した以降は、和牛は下落傾向に、量販向けの交雑はしっかりとした相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,700~1,800
A4	2,400~2,500	B3	1,600~1,700
A3	2,150~2,250	B2	1,450~1,550
A2	1,950~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,100		
B2	900~1,000		

豚肉営業部

10 月の全国と畜頭数は、前年同月比 1.1%増の 148 万 1,344 頭となった。また、10 月の豚肉通関数量は 7 万 2,480t（前年同月比 13.7%減）と前年同月を下回り、前月比でも 10.7%の増加となった。内訳はチルドが 3 万 5,096 t（4.4%減）、フローズンが 3 万 7,384t（21.0%減）。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
比	101%	86%	96%	93%	101%	98%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

10月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,304	83.0%	デンマーク	6,003	61.7%
カナダ	17,519	107.9%	スペイン	6,956	70.6%
メキシコ	1,272	151.7%	メキシコ	7,874	99.6%
			アメリカ	4,458	113.4%
			カナダ	3,241	87.9%
合計	35,096	95.6%		37,384	79.0%

単位：t

<11月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	70,700	550	518	812
4日	72,900	552	533	948
5日	73,300	527	487	1,048
6日	71,900	540	505	1,069
9日	71,000	521	503	699
10日	71,900	540	510	1,164
平均	71,950/日			957/日

3日が祝日だったこともあり、全国と畜頭数は7万頭台となったが、それほど出荷頭数は増えなかった。一方、量販店等を中心に需要は安定した状況が続き、相場は底堅い展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	69,600	571	508	816
12日	72,700	524	498	837
13日	69,400	545	500	1,056
16日	68,100	534	495	711
17日	71,200	538	499	1,111
18日	70,100	551	497	862
19日	71,800	517	494	871
20日	72,700	533	499	1,105
平均	70,700/日			921/日

気温の低下とともに鍋商材のバラや肩ロース等のスライス系アイテムは引き合いが強まった。また、すそ物も堅調な荷動きが続き枝肉相場にも影響がみられた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	73,900	540	508	903
25日	75,200	512	486	954
26日	72,900	500	440	994
27日	70,400	497	445	1,064
30日	71,300	482	451	840
平均	72,740/日			951/日

連休明けで稼働日が少ないこともあり、1日あたりの出荷頭数は全国的に増加し、25日の全国と畜頭数は7万5千頭を超えた。

<12月豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 12 月の肉豚出荷予測では 146 万 4,000 頭（前年比 99%）と予測している。当市場の 12 月集荷予定頭数は 1 万 9,000 頭、1 日あたりでは約 905 頭を見込んでいます。

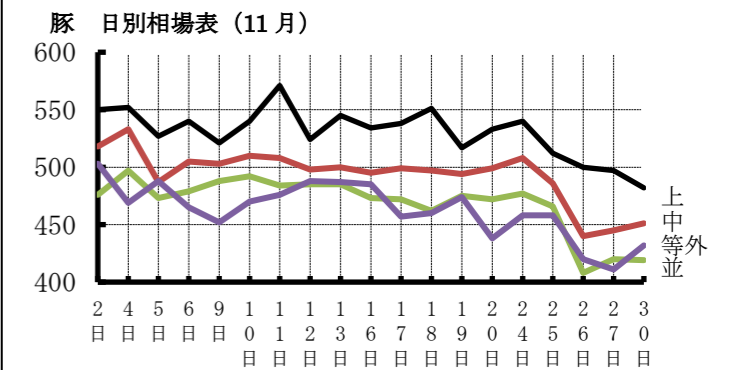
農畜産業振興機構によると 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6 万 9,500t（同 96.2%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 4,200t（同 99.3%）、冷凍輸入量は 3 万 5,300t（同 93.3%）と予測。

冷蔵輸入量は、新型コロナウイルス感染症の影響により北米工場の作業効率が低下していることに加え、北米からの入船の遅れが発生していること等から、前年同月を下回ると予測する。なお 3 ヶ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍輸入量は、国内の在庫が高い水準にあることに加え、前年の輸入量が中国におけるアフリカ豚熱の影響による先高を見越して多くなったこと等から、前年同月を下回ると予測する。なお 3 ヶ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

例年の 12 月であれば、前半にかけて鍋物需要の盛り上がりにより豚肉の引き合いが強まり、後半には鶏肉へとシフトする傾向となる。しかし今年は西日本で鳥インフルエンザの発生が相次いでいることから、鶏肉の需給は比較的タイトとなることが予想される。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で帰省や旅行の機会が激減すると考えられ、内食需要が強まり豚肉消費が下旬まで底堅く推移することが予想される。そこに年末に向けた手当ても重なれば、例年以上に国産豚肉を中心に引き合いが強まることも予想される。

以上のことから、当市場の上物平均価格は 530 円前後、中物平均価格 500 円前後の展開と予測する。



東京都港区港南 2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-9740-3111 FAX:03-3472-0127